



TOKYO 2020



TOKYO 2020

PARALYMPIC GAMES



1. 教育プログラムのコンセプト

1 目的

- 教育は、豊かな人間性を涵養し、人格の完成を目指し、ひいては社会の形成者を育成していくことを目的とするものであり、スポーツもその重要な一角をなすものである
- これらは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、文化・教育の重要性について、以下のように謳われている
「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする」【オリンピック憲章 「オリンピズムの根本原則」より抜粋】
- 教育の各種の取組は、文化と同様、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものである
- 組織委員会は、政府、地方公共団体、スポンサー企業、学校や大学等と連携・協働し、若い世代を鼓舞する取り組みを一体となって継続的に行う「東京2020教育プログラム」を積極的に展開していく

2 教育プログラムについて

<目標>

- ① 全都道府県において、オリンピック・パラリンピック教育を実施
- ② オリンピック・パラリンピック教育を通じて、多くの若者が自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲を持ち、多様性を理解し、豊かな国際感覚を備えるようになっている

<ビジョン>

みんなの輝き、つなげていこう (Unity in Diversity)

- 様々な体験・経験を積み、失敗を恐れず自らアクションを起こすことで未来が広がっていく
- 国・人種・宗教が違って、みんながつながり、つながりが広がっていく
- 多様性を理解し、互いに認め合い、内面を豊かにし、広がっていく

<プログラムの愛称>

「ようい、ドン！」(英語: YO・U・I・DON! (You・I・DON!))

- 日本語では、学校における徒競走のスタートや、何か物事を始めるときに使う言葉
- 大会ビジョンの実現に向けて、次世代を担う子どもや若者がみんなですたートを切ってみなで一緒にやろうという思いを込めている

3 教育プログラムのコンセプト

- ▶ オリンピックの3つの価値（卓越、友情、敬意/尊重）やパラリンピックの4つの価値（勇気、決断、平等、鼓舞）、東京2020大会ビジョン（全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承）に基づいたプログラムを全国で展開し、オリンピックムーブメントを加速させ、時代を担う若者にかげがえのない経験を提供する

大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

残すべき3つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解

- ・チャレンジや努力を尊ぶ態度、ルールの尊重やフェアプレーの精神など、様々な価値を学び、将来に向けて自信と勇気を持った人材が育っている

コンセプト②：多様性に関する理解

- ・障がい者等への理解を通じ、共生社会の実現を担う人材が育っている
- ・海外の文化や社会に関する理解を通じて、日本人としての自覚と誇りを持ち、社会で活躍する人材が育っている

コンセプト③：主体的・積極的な参画と大学連携

- ・東京2020大会までの活躍の経験を通じて、将来の国際社会や地域社会での活動に、主体的、積極的に参画できる人材が育っている



2. 教育プログラム



事業体系と認証の仕組み

1 認証制度の目的

- 政府、東京都、全国の地方公共団体、スポンサー企業、教育機関等が一丸となって、全国各地で教育の取組を展開し、エンゲージメントを広げるために、東京2020大会における教育プログラムとして認証する仕組みを構築

2 認証の事業体系（主なもの）

※ 開始時期は調整中

事業名	実施主体	認証対象	概要	付与マーク
(1)東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証	公立学校 私立学校 国立学校	主体	オリンピック・パラリンピック教育を体系的に推進する学校を組織委員会が認証	OCOGマーク 
(2)スポンサー企業による教育プログラム	スポンサー企業	事業 ・ イベント	スポンサー企業の特徴を生かしたプログラムを、教育実施校や地域住民等に提供（例：コカ・コーラによる学校でのスポーツ体験、パナソニックによる教材提供）	例：リオ大会におけるOCOGマーク
(3)大学等による教育プログラム	大学等		大学等が学生を巻き込んで企画した事業や各々の専門性を活かした授業・研究を組織委員会が認証	NCマーク 
(4)地域の非営利団体による教育プログラム	地方公共団体 非営利団体		地域の特徴を生かしたプログラムを学校等と連携しながら実施することで、世代を超えた交流や地域に根付いた取組を展開	例：リオ大会におけるNCマーク

3 各組織の推進体制

団体名	役割
組織委員会	<ul style="list-style-type: none">▶ 文化教育委員会の意見を踏まえつつ、多様な主体と連携し、オリンピック・パラリンピック教育を全国で展開していくための認証制度等の仕組みづくりとコーディネート
政府	<ul style="list-style-type: none">▶ オリンピック・パラリンピック教育を全国展開していくため、組織委員会、都道府県教育委員会等との連携・調整▶ スポーツ庁における先行的なオリンピック・パラリンピック教育の取組推進と、認証制度の構築・実施に向けた成果・課題の共有
東京都・ 会場所在地地方公共団体	<ul style="list-style-type: none">▶ 東京都における試行的・先進的な取組の推進と、認証制度の構築・実施に向けた成果・課題の共有▶ 会場所在地における教育プログラムの展開・普及
スポンサー企業	<ul style="list-style-type: none">▶ 企業の特徴を生かした、5本の柱に関連するオリンピック・パラリンピック教育プログラムの学校への提供
連携大学	<ul style="list-style-type: none">▶ 連携大学の専門性を活かした、教育プログラムの展開 (例：教員養成大学の学生による小・中・高等学校、特別支援学校等への教育支援)

4-1 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証

- 各都道府県教育委員会等で、オリンピック・パラリンピック教育を体系的に推進する学校（小・中・高等学校、特別支援学校等）の申請のとりまとめ（調整中）
- 組織委員会において、地方公共団体を通じて申請のあった学校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校に認証

組織委員会が提供する教育パッケージ

- 組織委員会が作成する又は認める学習教材の活用
- スポンサー企業が作成する教材や教育プログラムの活用
- マーク及び名称（「ようい、ドン！スクール」等）の使用

現場での取組例

授業・活動	内容
授業「生活」	オリンピックを支えるボランティアの仕事を調べ体験し、地域で働く人々とつながりを持つ
授業「音楽」	これまでの大会の開会式や表彰式における各国の国歌を鑑賞し、日本と世界の音楽に親しむ
授業「国語」	オリンピック・パラリンピックの価値を題材とした短歌をつくる
一校一国運動のような国際交流	学校単位で応援する国を一つ決め、相手国の歴史、文化、言葉を学んだり、交流を図る
学校間のスポーツ交流	障害のある生徒と障害のない生徒によるスポーツ交流において、お互いが楽しむことができるスポーツを創造し、一緒に行う

取組を推進するためのインセンティブの付与（ゴールド、シルバー、ブロンズ・スクール等の表彰制度等）

4-2 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証

- 認証にあたり、東京2020大会ビジョンの視点や学習内容に関する基準により、申請を行った学校の取組を総合的に審査する
- 東京2020大会スポンサーのマーケティングルールを順守する

【基準】

東京2020大会ビジョンに関する基準

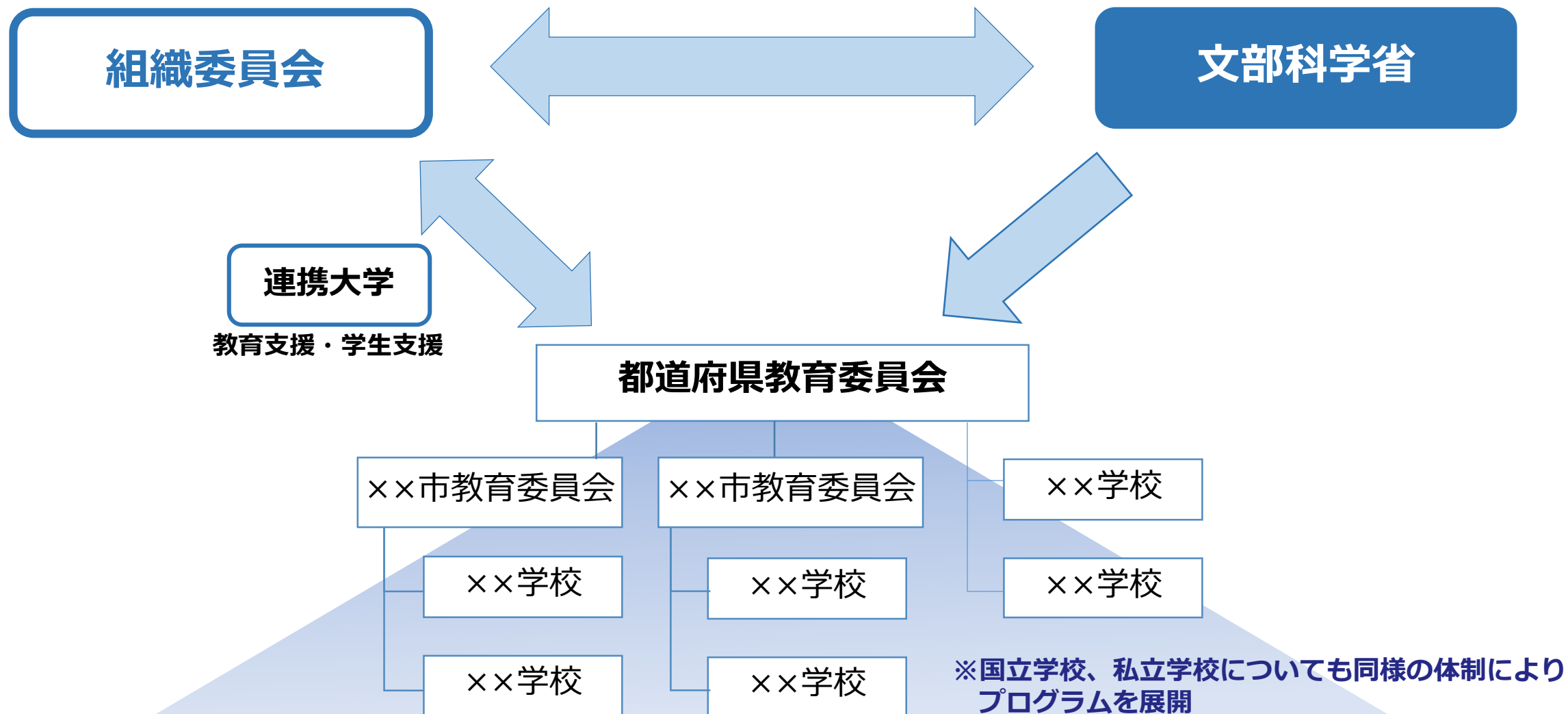
ビジョン	視点
全員が自己ベスト	<ul style="list-style-type: none">➤ これまでにない新しい取組にチャレンジしている➤ 子供たちが新しい経験を得ることができる取組である
多様性と調和	<ul style="list-style-type: none">➤ 人種や地域、世代等を超えた交流がある➤ 国際交流や障がい者への理解を促進する取組がある
未来への継承	<ul style="list-style-type: none">➤ 東京2020大会で築いたつながりや取組を大会後も継続して実施できる仕組みである➤ 子供たちが将来に向かって様々なチャレンジを試みる意欲を鼓舞する取組である

学習内容に関する基準

基準（視点）

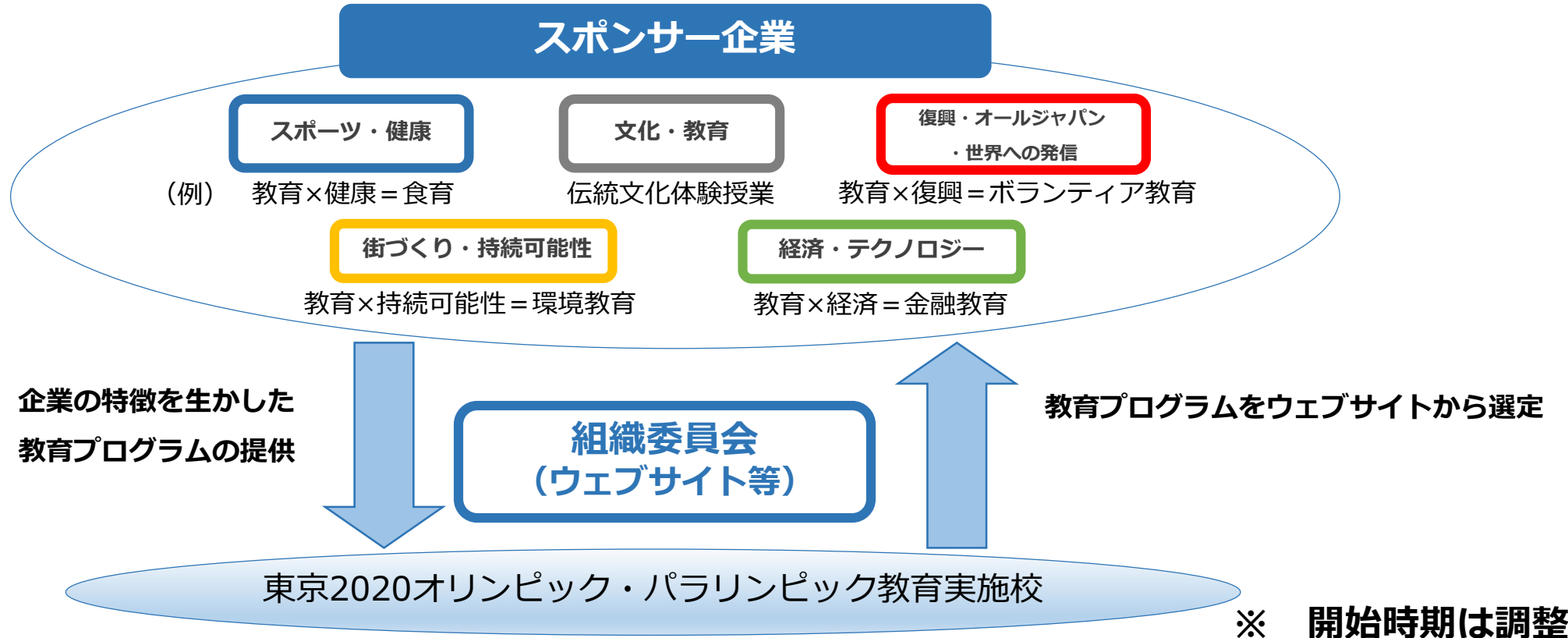
- オリンピック・パラリンピックの価値を学習している
- 組織委員会が作成する又は認める学習教材等に基づいた年間指導計画を用意しており、計画的に取組を実施している
- 学校全体で取組を行い、様々な教科や教育活動を通じて総合的に学習を行っている

4-3 全国展開の体制



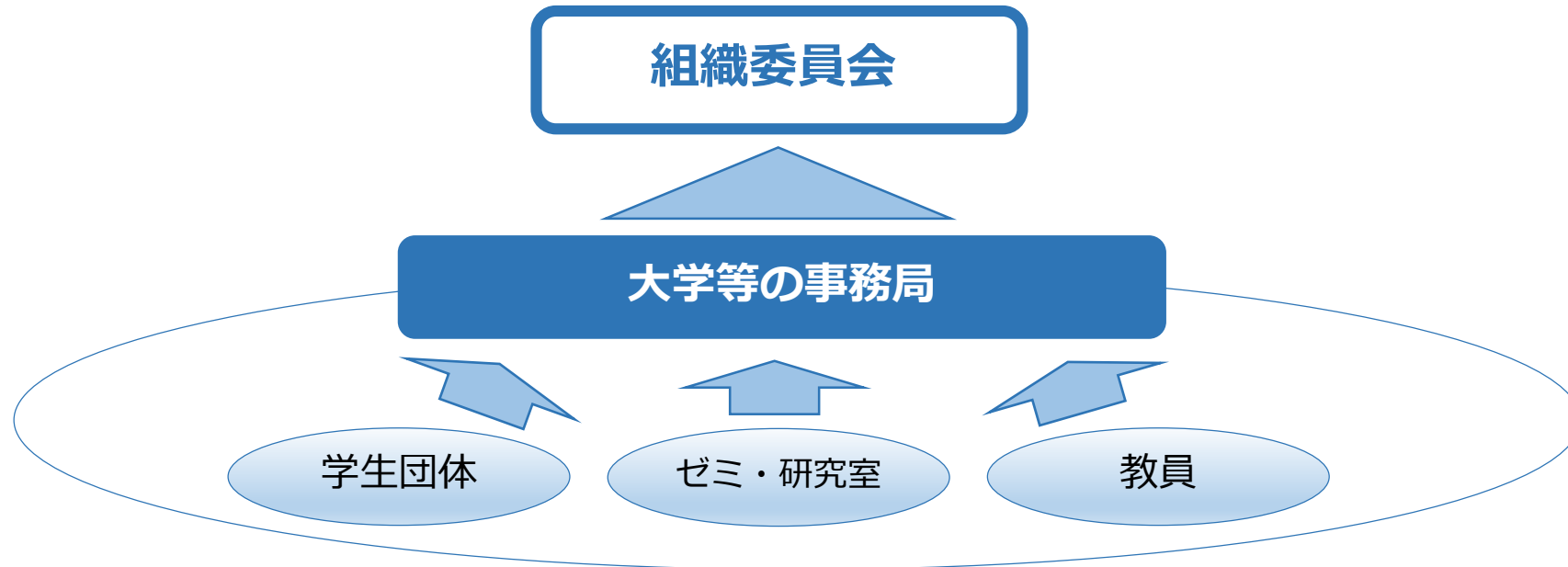
5 スポンサー企業による教育プログラムの参画システム

- 組織委員会がスポンサー企業と組んだ「教育プログラム」を開発する
- スポンサー企業と組んだ教育プログラムは、オリンピック・パラリンピックの7つの価値や、アクション&レガシープランの5本の柱に合致するものとする
- 組織委員会が、東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校へ、教育プログラムを提供できる仕組みを構築する



6 大学等による教育プログラムの参画システム

- 大学等（大学、短大、高等専門学校、専門学校）が学生を巻き込んで企画した事業や各々の専門性を活かした授業・研究を組織委員会が教育プログラムとして認証



(例)

- 学生に対するオリンピック・パラリンピック教育の実施
- 体験会、運動会、地域行事や祭り等を通じた地域に根付いた活動
- スポーツ大会や障がい者スポーツ大会等における運営の支援
- 組織委員会と連携している大学同士の共同イベントの実施
- 大学、高等専門学校、専門学校の専門性を活かした事業展開や大会のサポート
- その他のレガシー5本柱に合致する事業 等

※ 開始時期は調整中



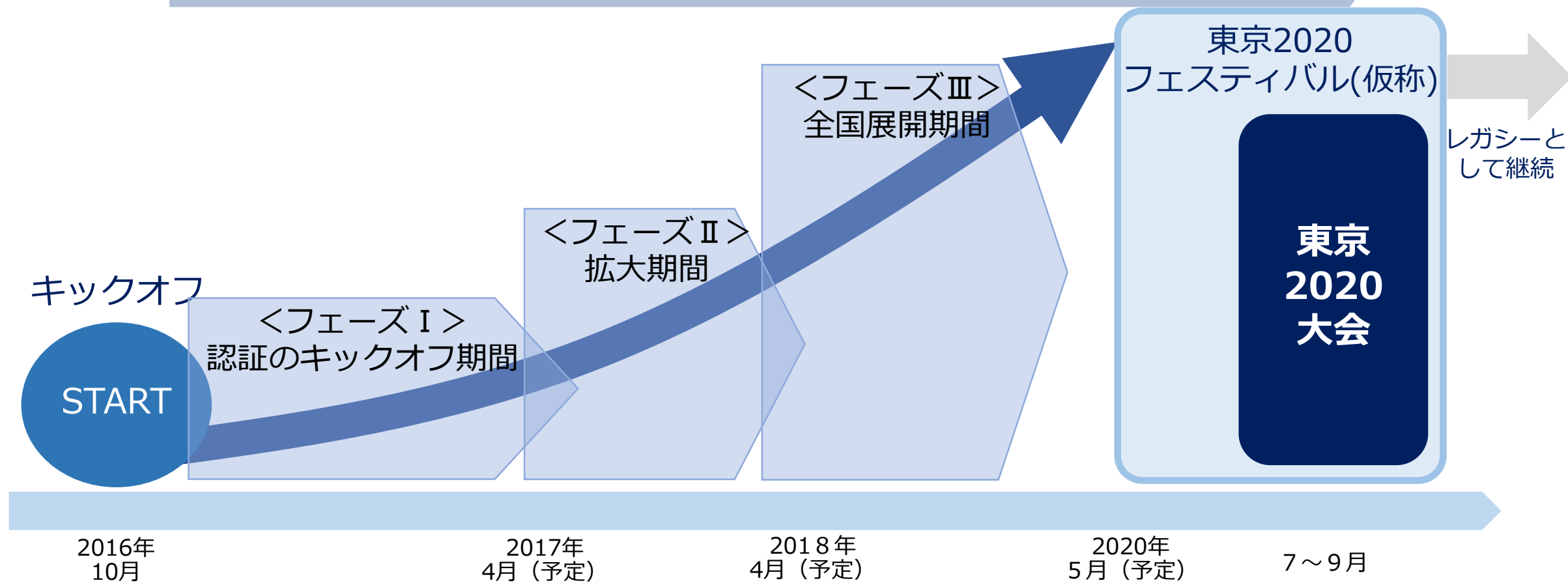
3. 2020年大会とその後の展開

1 教育プログラム「よいうい、ドン！」 今後の展開

➤ 2016年 8月頃～ 認証制度の公表・申請開始

➤ 10月頃～ 認証開始

- 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校の認証
- スポンサー企業による教育プログラムの推進
- 大学等や地域と連携した教育プログラムの推進



2 教育プログラムのウェブサイト

- ▶ オリンピック・パラリンピック教育の取組を全国に広げ、多くの子どもたちを参画させるためのウェブ・プラットフォームを提供・拡大していく

